

平成26年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	遺伝カウンセリングロールプレイ実習～全人的医学教育としての取り組み～	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	医学部	
※連携する他学部・機関がある場合は記入		
実施責任者(所属)	古庄知己(医学部附属病院遺伝子診療部、遺伝医学・予防医学教室)	
取組の目標	平成8年に始まる遺伝カウンセリングロールプレイ実習を改良することにより、遺伝性・先天性疾患に関する知識レベルの向上のみならず、患者・家族への想像力養成、チーム内コミュニケーション能力の養成といった普遍的医学教育効果の向上を目指すことを目的として取り組んだ。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>学外指導員として患者・家族の招聘</u>: 本年度には、初めて、ダウン症の子どもを持つお母様をお招きし、実習の見回り・アドバイスと講義をしていただいた。 2. <u>学外専門家の継続的招聘</u>: 本年も小児遺伝の国内第一人者である黒澤健司先生(神奈川県立こども医療センター遺伝科部長)をお呼びすることができた。 3. <u>学習リソースの充実</u>: 本プロジェクトの支援をいただき、全対象疾患に関する最新の良質な書籍やDVDを購入することができた。本年のみならず今後の実習においても、学生の参考になるものである。 	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた b. おおよそ達成できた c. 半ば達成できた d. おおよそ達成できなかった e. 達成できなかった	(そう評価する理由) 本年度最もインパクトが大きかったのは、学外指導員として、ダウン症の子どもを持つお母様をお呼びしたことだった。学生たちの目の色が変わり、実習への集中力が高まるのを目の当たりにした。講義後の感想文でもかつてない衝撃を受けたとの思いが多く綴られていた。 (今後の展望) 次年度以降も、学外指導員および学外専門家の招聘を行い、また本年度充実させた学習リソースを活用して、よりよい実習を作り上げていきたい。本年度ご支援をいただき、心より感謝申し上げます。